



情報システム科の今野先生より、年末年始の中国の様子について寄稿していただきました。中国は毎年 200 万人以上の日本人が訪れる国です。現在は海外旅行どころか国内旅行も難しい状況ですが、この寄稿を読んで中国を訪れた気分になっていただければと思います。

年末年始の中国上海、蘇州旅行記

情報システム科 今野由季子

スケールが大きい中国

成田から上海へ向かいます。上空から見える長江は大きさが印象的で、大陸にやってきたという実感がわきます。浦東空港から上海へは常電導磁気浮上式のリニアモーターカーで移動します。窓口で渡されたカード式チケットは、リユース（再利用）でした。約 30km を僅か 8 分で移動します（JR で建設中のリニアは超電導磁気浮上リニアモーターカー、都営大江戸線のリニアは車輪のある“リニアモーターカー”で、一口にリニアと言っても違いがありますね）。



水道水は飲めません。飲用水は冷やしません。

上海では水道水は飲用ではありません。中国では冷やした水を飲む習慣がないようで、ある飲食店では湯飲みに入った白湯が出されました。ホテルの客室にはペットボトルの飲用水が常温で用意されていましたが、客室で常温の水を飲むのは少し不思議な気がしました。

歴史的な景観を守っている蘇州

蘇州は東洋のベニスといわれるほど豊かな水がある場所で、天然石の美を追求した留園や、水路によって栄えた山塘街を散策しました。山塘街の水路は、科挙の進士科に合格したスーパーエリート白居易（白楽天）が整備したそうです。山塘街では水路を小舟ですすみ、船頭さんの歌を聴きながらゆらゆらと気持ちいい時間を過ごしました。



英語表記が浸透している

さて、食べ物はどこも外れなしのおいしさでした。中国の店員さんは基本的に愛想がありませんが、聞けば教えてくれます。一方、写真がないメニューは漢字から想像するしかないなので、思ったものと違う料理になることもありました。

しかし、公共の表示は中国語と英語が必ず併記されているため、中国語が読めなくても我々外国人には助かります。日本でも鉄道や国道では英語併記が進んできましたが、日本語に慣れない外国人にとってはもっともっと英語表記を進めるべきだと実感しました。

キャッシュレス

上海はもちろん蘇州でもキャッシュレス化は進んでいて QR コードでの決済も浸透していました。地下鉄では現金で切符を買える券売機の方が少数派です。



政策と体制

大都市では四輪車の不要なクラクションは罰金対象だそうで、クラクションに反応して車のナンバーを撮影し、即時に電光掲示板に上げるシステムがあります。それもそのはず、下の写真のような防寒着付き電動スクーターが何十台も連なって歩道や横断歩道を、警笛を絶え間なく鳴らしながら疾走していきます。スクーターの警笛はもはや「どけどけ」ではなく、「ちょっと通るよ」くらいのニュアンスに聞こえてきますが、喧噪感は否めません。四輪車くらいはクラクションを慎みましょう、というマナーアップの政策のようです。政策といえば、中国では鉄道に乗る前、博物館に入る前に X 線検査による手荷物検査があります。全員が整然と検査を受ける体制が整っているのが、最も日本とは違う雰囲気だと感じました。



飛行機から見た中国大陸、そして長江の大きさなど、到着する前から中国を楽しむことができますね。また、キャッシュレス化された社会や電動スクーターが疾走する様子などは日本では見られない光景で、日本と中国では生活の様子が異なることがうかがえます。

日本では正月といえば1月1日ですが、中国では毎年日付が変わるそうです。今年は1月25日が中国ではお正月だったそうです。残念ながらこの時期に中国を訪れるのは難しいですが、また違った様子が見れるのではないかと思います。

今はまだ旅行ができる状況ではありませんが、新型コロナウイルスの流行が収まった際にぜひ中国を訪れてもらえればと思います。

静岡県立科学技術高等学校 国際化推進室 通信 令和2年度 第2号 2020年7月

国際化推進室では、職員・生徒の「国際化」をめぐる様々な体験や知見を発信していきたいと考えております。本号に関して感想をお寄せいただければ幸いです。

〒420-0813 静岡市葵区長沼 500 番地の1 静岡県立科学技術高校 TEL:054(267)1100 FAX: 054(267)1123